

開聞岳

ほぼ平坦な沿岸の土地に座する高さ 924 メートルの開聞岳は、薩摩半島南部のランドマークです。この山は、史料によると 885 年に最後に噴火した undissected 火山です。指宿火山地帯の一部で、底部の成層火山と小さな中央火山の二層構造をしています。開聞岳の対称的な円錐形は、富士山に似ているため、「薩摩の富士」という愛称があります。この地域の気候は温暖であるため、冬でも丘陵地帯には霜が降りず、日本で最初に花を咲かせる明るい黄色のナノハナとキンギョソウが自慢です。